

## 「えひめ救急電話相談#7119」に関するアンケートの結果について

### 1 調査目的

令和5年7月1日の運用開始から1年を経過した、「えひめ救急電話相談#7119」については、毎月1,300件～1,500件程度の利用があるが、救急車の出動件数は依然として高い水準で推移している。

真に必要な人に、必要な医療を提供するためには、引き続き#7119を多くの方にご利用いただくことが不可欠であることから、現在の認知度を把握するとともに、これまで行ってきた広報の効果等を検証するため実施するもの。

### 2 調査方法

インターネットを利用したアンケート調査

### 3 調査期間

令和6年7月2日（火）～ 7月9日（火）

### 4 回答者数

400人（男性195人・女性205人、19歳～79歳の県内在住者）

### 5 概要

#### （1）#7119の認知度について（Q1）

○調査結果：35%（139人／400人）

※前回（R6.1.24～R6.2.5）調査結果：33%（130人／400人）

○前回調査時から、認知度に大きな変化はないものの、「#7119を今後利用するか（Q12）」の質問結果では、「利用意向あり」が約6割（225人／400人）であることから、更に広報して周知を図ることで、救急医療の適正化に貢献できる余地がある。

#### （2）認知に至ったきっかけ・経緯（Q2）

| 順位 | 広報媒体     | 割合（人数）   |
|----|----------|----------|
| 1位 | テレビニュース等 | 32%（45人） |
| 2位 | 自治体の広報紙  | 14%（19人） |
| 3位 | ポスター、チラシ | 12%（16人） |

○前回調査時＜45%（58人）＞と同様にテレビの活用が効果的であるため、テレビで取上げられるような取り組みが必要である。

○各市町と連携し、継続的に広報紙へ掲載することが必要である。

(3) 利用経験者 18 人の行動変容について (Q7)

○利用者の約 7 割 (12 人／18 人) に行動変容あり。

- ・救急車を呼ぶつもり → 相談により救急車を呼ばなかった
- ・受診か様子見のつもり → 相談により救急車を呼んだ

○利用していただくことで、救急車の適正利用に繋がることや、潜在重症者等の早期受診、早期搬送に繋がっているものと思料。

(4) 救急車の出動件数が過去最多であったことの認知 (Q9) 及び救急搬送者のうち 5 割弱が軽症者であることの認知 (Q11)

○調査結果：Q9⇒12% (49 人／400 人)、Q11⇒30% (121 人／400 人)

○#7119 の広報に加え、救急出動件数が高い水準で推移していることや、軽症者の搬送が多いこと等、救急医療の逼迫状況を広報していくことが必要である。

(5) 受診可能病院を確認するための 119 番利用歴 (Q10)

○調査結果：18% (71 人／400 人)

○前回調査時<11%(45 人)>から増加しているため、各消防本部通信指令室への 119 番入電件数を削減するためにも、#7119 の更なる広報が必要である。